

## フィンドレー大学への協定留学 月例報告書 (3月分)

静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 3年 桑原大樹

毎度毎度、月例報告書に書くことが文句ばかりしかなくて嫌になる。俺は楽しんでないのか？

前回の月例報告書で、「とにかく頑張るしかないのだ」とかなんとか書いてから3週間、何をして生きてきたか。何も変わらない。授業に出て、課題をやって、友達と話して、帰って寝る。毎日その繰り返しだ。書くことがなくて困る。早く日本に帰りたくて仕方がない私は、1日ずつ減っていくカウントダウンを眺めながら、少しでも英語に触れておくか、とアメリカ人に話しかけたり、かけなかったり。最近は日本人と日本語で話すことも、かなり増えた。

英語は、まあそこそこ扱えるようになったと思う。英語字幕があれば映画も大体分かるし、アメリカ人との会話も、基本的には問題ない。「ごめん、今なんて言った？」と聞き返すのは日常茶飯事だが、これも英会話の能力の一つだ。ただやはり、字幕がないと実写映画はほとんど聞き取れないし、アメリカ人同士が会話しているのを聞いていても分からないことが多い。私が8ヶ月でたどり着けたのなんてそんなレベルだ。8ヶ月あったらもっといけただろうと思うが、色々あってこれが限界だった。後1ヶ月で少しでも、とは思っている。帰ってからも勉強は続けるし。

帰国まで1ヶ月となり、私の心はもうすでに日本に囚われてしまった。牛角を予約し、美容院を予約し、たこ焼きパーティーの計画を立て、いつ遊べるかと友人や後輩に連絡し、履修を組み、帰国後に主催するイベントの企画書を事務室に提出し、新1年生からの質問に嬉々として答え、帰省の予定を考え、新しいゲームを予約して、毎日、日本に帰ることばかり考えている。このままではいけないとは思っているが、まあ英語の勉強もしてないわけではないので許して欲しい。ちょっとここには書けないが、つらいこともあった。Twitterをご覧いただいている皆様はご存知かもしれない。今はそれを乗り越えようと必死なのだ。

これからの1ヶ月も、きっと同じような毎日を過ごしていこう。ただ違うのは、二度と会えないだろう友達ばかりのこの国をすぐに離れてしまうってことだ。帰りたい、文化が違う、相容れないなんて言っても、気のいい奴らだし、1年も一緒にいなかったけど、ほとんどの確率で二度と会えないだろうと思うと、寂しくはある。一部の人たちはいつか日本に旅行するなんて言っているが、実際に実現するかと言われれば望みは薄いだろう。高校に入る時、早く中学を卒業して高校へ行きたくて仕方がなかったが、いざ高校へ入ってみるとあまりに大変で、中学へ戻りたくてたまらなくなった。日本が楽しいことは明白なので少しケースは違うが、実際ここでこの生活を失ったら、その後はもう取り戻すことは絶対にないわけだから、精一杯楽しみたいと思う。



せっかく日本とアメリカが戦うので、WBCの決勝戦をみんなで観戦した、その様子。大谷万歳！